

第7 バリアフリーの推進に向けて

1 秋田市におけるバリアフリー推進の考え方

(1) 安全で円滑な移動や施設利用等の確保

利用者の目線に立ち、誰もが安全かつ円滑に移動や施設利用等ができるよう鉄道、バス、道路などの交通施設とともに、多くの人が利用する建築物などへの連続したバリアフリー化を推進します。

(2) 継続的なバリアフリーの推進

バリアフリー化は、今後の高齢社会を見据え、まち全体で取り組むべき施策であり、関係者が一体となって継続的に推進します。基本的には、優先的かつ重点的にバリアフリー化に取り組むべき地区を重点整備地区として整備を進めていきますが、重点整備地区以外においても、個別事業を実施する際はバリアフリー化に努めます。

また、具体的なバリアフリー施策の内容や、新たに生じる問題等については、高齢者や障がい者等の当事者のもとで検証し、その結果に基づき、新たな施策や措置を講じて進めていきます。

(3) 市民の支えあいによるバリアフリーの推進

高齢者や障がい者等の円滑な移動および建築物等の施設の円滑な利用を実現するためには、ハード整備だけでなく、市民一人ひとりが支えあいの精神をもち、高齢者や障がい者等に対する理解を深めていく必要があります。市民の誰もが、移動等に不自由な人に出会ってもすぐ手を差しのべられ、地域社会全体が相互に協力し合うことができるよう「心のバリアフリー」を推進します。

心のバリアフリーの取組

東北運輸局秋田運輸支局では、誰もが高齢者・障がい者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指し、あらゆる世代に高齢者や障がい者等に対する介助の方法などを知ってもらうため、毎年、バリアフリー教室を開催しています。

下の写真は、平成22年度に小学校の4年生を対象に秋田駅で実施したバリアフリー教室の様子です。



疑似体験と介助の様子

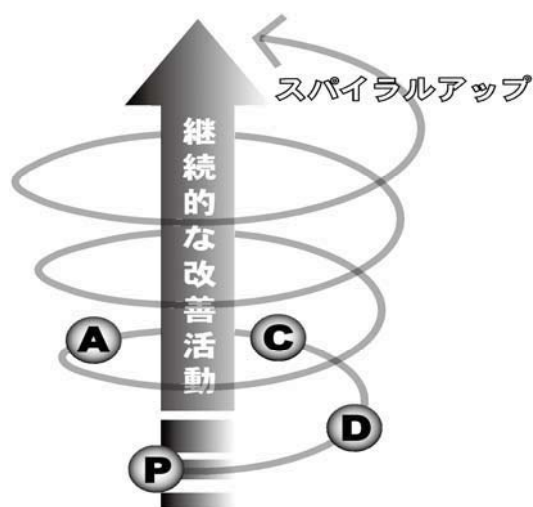


盲導犬による駅利用体験の様子

2 バリアフリー化の進捗管理

施設の移動等円滑化を高めていくためには、一度事業が完了したら終了するのではなく、市民等、様々な関係者により評価を行い、さらに改善していく、スパイラルアップ(※14)が必要です。

このため、基本構想の進捗管理は、基本構想策定(Plan)後の事業の実施(Do)を受けて、その効果を評価(Check)し、必要に応じて見直す(Action)といったPDCAサイクルにより、事業スケジュールの適切な管理と事業の質の確保を図ります。



(※14)スパイラルアップ：事前の検証段階から事後の評価の段階に至るまで、市民が積極的に参加し、この参加のプロセスを経て得られた知見を共有化し、他のプロジェクトに活かすことによって行われる段階的、継続的な発展。

(1) 進捗管理

基本構想策定後から特定事業計画作成、事業実施・完了、供用開始後の事後評価までの期間にわたる管理は、高齢者や障がい者、市、公安委員会、特定事業等の実施主体が参加する「秋田市バリアフリー協議会」において行います。

(2) 事後評価の実施

「改善された点」「改善が不十分な点」を明らかにし、今後の整備をよりよいものに高めていくため、特定事業の完了後に、整備水準の評価とともに、高齢者や障がい者等利用者による評価を行います。

また、定期的に、高齢者や障がい者等の生活環境の改善や、社会参加の機会の向上など、市民にもたらされる成果について「公共交通の利用状況」「移動時の負担」などの指標により評価を行います。

(3) 市民参加等

市民への意識啓発や教育など、心のバリアフリーの推進や情報提供等に関する取組は、市だけでなく、市民・事業者等との協働により推進します。

なお、基本構想段階における施設の点検や、アンケート、ヒアリングだけでは不明瞭なこともあるため、事業者が設計・施工段階で、高齢者や障がい者等の意見を聞くシステムや、施設供用後のモニタリングなど利用者の意見を聞くシステムの整備などを検討します。